



平成22年 2月15日

2	3	4	5	6	7	8
面	面	面	面	面	面	面
公民館研究集会 功労者表彰 高齢者介護を考える③ みんなで仲良く 町の埋蔵文化財 パソコンでアニメをつくらう スポーツ・情報 なかもたち・すぽっと 俳句・短歌・こどもの詩 視点・声・ペンべん草						



まつかわ百景 ③

「雪の衣をまとう樹々」

雪の朝、殺風景な果樹園が華やかに変貌する。

松川町の男女共同参画自主グループの活動の中で、昔の食生活等について、古老からの聞き書きを残し、後世に伝えるべきではという意見が出て、グループが一年がかりでまとめあげた冊子が『頑張つて暮らしたんだに』という本となつて発刊されました。このことが某新聞に載つたことで大きな反響を呼び、県内外からも沢山の注文があり、追加発行という嬉しい悲鳴をあげたところでした。

主張

風化する過去の食文化

昔のことを語ってく、たさつたのは、大正昭和の激動の時代を懸命に生き抜いてこられた30名の方々に、特に印象的だったのは97才の方のお話に「昭和19年、長男5才、長女3才、二女が生まれた17日目に夫に召集がきて戦争に行つたの。……ご飯には麦、芋、野菜や山菜を混ぜて食べた。とにかく、子どもに食べさせにやならんという事ばつかり考へて暮らしてきたと思うなあ。」

この本が食文化の歴史を伝えるだけでなく、食生活の改善や健康増進のヒントも、そんな先人の知恵の中から得られるのではないだろうか。

「食べさせたい」という言い回しばかりでした。銃後に残された子どもさんを丈夫にシトネル(育てる)ことが第一だったことが良くわかります。大麦が4俵も取れ嬉しくて手紙を出したのに、一回も便りがくる事もなく、その方のご主人はシベリアの地で亡くなられました。出征して65年も経つた平成19年4月、県から遺骨が届けられたそうです。

昔の人の苦難の暮らし、それも乏しい食料を大切に、知恵を積み重ねた自給自足の食生活は、親子や地域が肩寄せ合い、助け合つて心豊かに生きてきた地域文化の根底だつたと思えます。

聞き書きの会 宮澤敏子

が お か し い ! ?

～気候変動について考える～

1月24日(日) 松川町中央公民館と町民体育館を会場に第47回松川町公民館研究集会が成人講座と共催で開催され、基調講演の後、関係各団体や一般町民の皆さんが熱心な意見交換を行いました。

基調講演



講師の小川光兵氏

基調講演では、松川町地球温暖化防止委員の小川光兵氏、橋爪和也氏、三石克己氏のお三方にお話をお聞きしました。

はじめに環境学習活動の一環として、アカウミガメの放流ツアーを行っているが、その中で知ったこととしてアカウミガメは周囲の温度によって卵から孵る際に性別が決まるが、ここ最近の温度上昇によるものかメスになる確率が上がっているという事実を話されました。

また、二酸化炭素を排出する化石燃料の使用抑制の1例として、ペレットストーブの

利用について話され、木を燃やす分には、木が成長する際に吸収した二酸化炭素を出すだけなので地球上には二酸化炭素が増えない。そのためマキを利用するとよいのだが、用意するのが難しい、木の種類によって火の持ちが悪いなどの欠点がある。その欠点を改善するために数種類の木を混ぜて圧縮し、安定して利用しやすくしたものが木質ペレットなので利用してほしいが、初期費用の高さや灯油に比べてペレットが高価であるなどの理由でなかなか普及していない。しかし、環境を考えるうえで利用も考えてほしい。



また、近年の降雨の傾向として降雨のない期間が長く続いたり、降り出すと集中的に降る事が多くなっているといった話をされました。

分散会

去年はキノコが全然取れなかった。最近の冬は確かに温かい。雪も少ないし…。分散会でも最近の「気候がおかしい?」実例が多く挙げられました。

地球規模で起きている問題。しかもテレビやラジオは年々悪化の一途を辿る「病んだ地球」を強調。ゴミ分別や節水・節電などに取り組んでいるけれど「成果が出ていないのだろうか」と不安になったり、「自分ひとりががんばったって…:と諦めそうになったり。討議では、普段思っている口に出来ずにいた「エゴロジ」への不安や疑問も噴出しました。



白熱した分散会討議

去年はキノコが全然取れなかった。最近の冬は確かに温かい。雪も少ないし…。分散会でも最近の「気候がおかしい?」実例が多く挙げられました。地球規模で起きている問題。しかもテレビやラジオは年々悪化の一途を辿る「病んだ地球」を強調。ゴミ分別や節水・節電などに取り組んでいるけれど「成果が出ていないのだろうか」と不安になったり、「自分ひとりががんばったって…:と諦めそうになったり。討議では、普段思っている口に出来ずにいた「エゴロジ」への不安や疑問も噴出しました。

このように環境問題は難しいことだらけだけど、とりあえず、日常での地道な活動は続けていこう、と前向きな意見が出ました。大人が取り組む姿を子ども達にも伝えていきたいものです。名子地区館の恒例行事「歩け歩け大会」では、道端に咲く花や植物を子ども達に教えています。

最近の気候変動は、気象の専門家です。私達は日々変化していく気候に対応して暮ら

健康、福祉、挨拶…これまで松川町では、住民主体での活動の輪が幾つも広がってきました。今回取り組んだ気候に関連する問題についても住民主体での活動の輪、各団体の連携が広がれば幸いです。

最近ちょっと…

気候

平成21年度 第47回公民館研究集会



それぞれの地区館ごとにかかれて、基調講演の感想、分散会での討議内容について意見を申し合いました。

分散会での討議を踏まえ、地区公民館の行事の際に、身近な環境問題を学ぶ機会を子ども達に与えたいという意見がある一方、子ども達の方が学校で環境について学んでいるので大人が学べる機会も欲しいという意見もありました。

個人、学校、行政がそれぞれに取り組むのではなく、地域のつながりの強い地区公民館も含めて、一丸となつて活動していきたいと話し合う事ができました。

地区公民館
ごとの討議



野原 義宏さん



渡辺 克志さん



中平 信次さん



寺沢 喜浩さん

1月24日公民館研究集会において8人の方が
公民館功労者として表彰されました。
表彰者は次の方々です。

公民館 功労者表彰

平成21年度



松尾 豊さん



林 正茂さん



原田 和房さん



佐々木 孝さん

シリーズ③

高齢者介護を考える

—介護をもっと楽に、もっと楽しく—



「介護を考えるシリーズの3回目は、介護介助を行う人の体への負担を少なくし、楽に楽しく介護ができる方法について「地域包括支援センターきずな」のセンター長で社会福祉士の大澤孝史さんに聞きました。

自然な動きを利用して負担の少ない介護を

松川町では介護認定を受け、介護4ら5の重度の方が現在140名余いらつしやいます。町では早期からデイサービス事業の取り組みや、農業に従事して現役である方が多いことから、飯田下伊那の他市町村と比べれば少ないのですが、日常的に在宅で介護をしている方がいるというのが現実です。

▲「アスに腰掛けた状態から立ち上がる」
 少しずつ座面の前方へ移動するよう声をかけ、斜め前に立ち上がるよう誘導すれば、相手の手を軽く支えるだけで力ほとんど必要ない

福辺さんは理学療法士として20年以上介助の仕事に携わっておられると同時に、体に障がいをお持ちです。そこでご自身の体への負担が少ない介助術を生み出されたのですが、このセミナーで気づかされたことが大変多くありました。

例えば、介護される方がイスに腰掛けている状態から立ち上がる際、介護者は自分の力だけで立ち上がってもら

そうした中で聞こえてくるのは「介護や介助がしんどい」「腰痛に悩まされている」など、体への負担が非常に大きく、重労働であるということ。社協のスタッフからも同様の声を耳にし、昨年7月に「もう一步踏み出すための介護セミナー」を開催しました。実践を通して「福辺流介助術」を生み出した福辺節子さん（大阪府在住）を講師に招き、「介助される人の力を引き出す介助」を実演指導いただき、力まかせでない安全な介助方法を学びました。

「腰痛に悩まされている」など、体への負担が非常に大きく、重労働であるということ。社協のスタッフからも同様の声を耳にし、昨年7月に「もう一步踏み出すための介護セミナー」を開催しました。実践を通して「福辺流介助術」を生み出した福辺節子さん（大阪府在住）を講師に招き、「介助される人の力を引き出す介助」を実演指導いただき、力まかせでない安全な介助方法を学びました。

次に紹介するのは、介護される方の力を引き出すために、ふだん心がけたい3つの基本です。

△基本1▽
 動きのパターンを知る
 相手のできること、できないことを知り、できない原因も考えます。そのためには、相手をもっと見て、言葉をもつ

心がけよう 相手を思いやる気持ち

「介助される人の力を引き出す介助」を実演指導いただき、力まかせでない安全な介助方法を学びました。



▲「ベッドから起き上がる」
 相手のできることを理解して、残存機能を利用しながら手を添え、声をかけながら

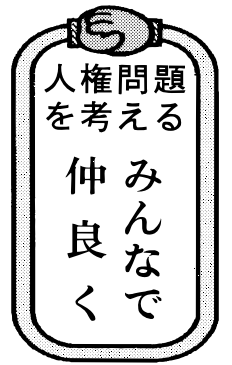
この「3つの基本」は介護・介助の場合だけに限ったことではありません。日常生活に置き換えてみてください。家庭でも職場でも大切なことである「相手を思いやる気持ち」というものが、どんな場面にも必要であることを改めて認識したいものです。

※平成22年度も「介護セミナー」を開催予定。詳細は「きずな」(☎36・6800)へ問い合わせを

と聞き、もっと感じることに
 △基本2▽
 動きが出るまで待つ
 誘導しながら、動き出そうとするのを待ちます。引つ張るだけでは相手は動けません
 △基本3▽
 丁寧な介護を
 手や体をいきなり持つ、触るのでなく、声をかけながら誘導し、ひと呼吸おいてから行動します。尊重の気持ちを忘れずに



▲「仰向けから横向きに」
 手を上で組んでもらったところその手を軽く傾けるよう動かすと自然と横向きに



友だちとのけんか

松川北小3年 大澤いずみ
私は給食の時に親友とケンカをしてしまった。理由は私が男の子と遊んでいて、ケンカした子が「ねえねえ」と話しかけてきた時に「ちよっと待つて」って言ったたら「もういい！」って怒って向こうに行っちゃったから。私は素直になれずに、そうじの時まで口をきかなかった。さすがにつらかったのであやまりにいつて、でもなかなか素直になれずあやまれなかつたけど、最後に勇気を出してあやまつたらすつきりしたよ。

ずっと友だち

松川北小3年 原 彩花
私は、いつも親友に家によつてもらつて学校に行つていた。今日は、二人がよびに来てくれた。いつもは来てくれない人も来てくれてうれしかった。学校に行く間は、いろんな話、家でのことや、今日のことをたくさん話ながら行つた。学校についてから、私はその親友と一緒にあそんだ。時

間もいつばいあつたから、いろんな話をしたり、たくさんあそべた。

この人たちとは、ずっと友だちでいたいなあ。

仲直り

松川北小3年 松尾 未唯
「ごめんさい。」と言うのは少し勇気がいるよね。でも「ごめんね」と勇気をふりしほつて言つてね。

それは、あいての為だけではなく自分のためでもあるの。だから自分のためやあいてのためと思つて言つてね。

「いいよ」と言つてくれたらそれは、仲間おり

「いいよ。」と言つてくれなくてもごめんさいをゆるしてももうまで言つて「いいよ。」とゆるしてもらえたら、仲間おり。

みんな友だち

松川北小3年 後藤 梢
みんなであそびぶと、気分がいい。

だつてみんながやさしいから。楽しいから。

みんなといるとわくわくする。あそんでいる時間がすぐたつてしまう。それだけ友だちといるのが楽しみなんだ。

私は、みんなが大好き。これからもずっと、友だちでいたいから。

これからも、ケンカをせず

になかよくしてね。友だちはたからものだよ。なかよし

松川北小3年 南島 しほ
わたしの友だちいつばいいよ。

なかのいい友だちかとかけんかして、かなしかつたよ。

でも、少したつと友だちはあやまつてくれるよ。

でもいつもとちがつて友だちは、あやまつてこない。

そのときわたしはきずいたよ。あやまつてくるのをまつんじやなくて自分からあやまつること。勇気をだして私はあやまつたよ。やつばなかよし

ていいね。私、いつまでも友だちでいたいなあと思つたよ。

友だち

松川北小3年 森下 望
友だちは、みんなといるとたのしいよ！

みんなのたからものそれは、友だち

友だちといるとうれしくなる、たのしくなる

友だちなら、だれといてもたのしいよ

友だちになるには、

じぶんから声をかけるの友だちからこえをかけられ

ても、よろこんで、ともだちになろうね。

友だちは、みんなのたから

松川町の文化財

(366) 埋蔵文化財 (264)

文化財シリーズ 大島城(29)

『信長公記』に記された大島城

教育委員会 酒井幸則

大島城のことは織田信長の事績を記した『信長公記』(しんちょうこうき)という書物に記録されています。『信長公記』は織田豊臣両家に仕えた戦国末期の武将である太田和泉守牛一が、江戸時代初期の慶長十五年頃に著した織田信長一代記です。

太田牛一は春日井の生まれで、信長の足軽からやがて親衛隊の一人に取り立てられ、無学な田舎侍の出身ではあったが非常な努力家で、独学で学問を修め、後には信長・秀吉の側近となり、信長亡き後は秀吉直轄領の代官や、肥前名護屋城の築城の一部を担当、また明国からの使節接待役を務めるなどの重職をこなしています。

『信長公記』はこうした職務の間、丹念に綴られた日記をもとにまとめられたもので、その史料価値は極めて高く評価されています。牛一は愚直で一本気であつたらしく、それがために記述にも美化・誇張はなく、主観や評論ではなく、あつたことを除かず、無

かつたことは付け加えず、信憑性の高い記述として評価されているのです。

大島城が登場するのは織田軍による甲信侵攻の条です。信長は武田軍の実力を高く評価し、ある面、不気味ささえ感じていましたから、武田の拠点、伊那大島城にも注目していました。大島城攻撃の前後の記述は信憑性が高く、当時の様子をよく知ることができます。

町の資料館では国会図書館の協力により、牛一の自筆部分を多く含んで最良の原本とされる岡山大学蔵、池田家文庫本(重要文化財)の複写を展示しています。次号より大島城落城前後の様子を、この『信長公記』により窺つて見たいと思います。

『信長公記』はこうした職務の間、丹念に綴られた日記をもとにまとめられたもので、その史料価値は極めて高く評価されています。牛一は愚直で一本気であつたらしく、それがために記述にも美化・誇張はなく、主観や評論ではなく、あつたことを除かず、無



信長公記に記された大島城の条 (池田家文庫本)

第4弾 親子わくわく体験教室

パソコンで アニメをつくらう!

現代版パラパラ漫画の世界

2009年12月23日

主催：松川子育て教育懇談会

後援：松川町教育委員会

松川ネイチャーキッズ

昨年の12月23日に松川北小学校にて第4弾親子わくわく体験教室が開催されました

第4回を数える親子わくわく体験教室は、昨年新たに機器が更新された、松川北小学校のコンピュータ教室にて、多くの参加者を迎えevaアニメータースクールIIというコンピュータプログラムを使用して、パソコンでアニメーションを作成する事に、親子でチャレンジしました。

今回講師を務めて頂いた方は、松川北小学校の五味校長先生。以前このプログラムの開発にたずさわった方で、丁寧に使用方法を参加された皆さんへ説明して下さいました。パソコンでつくるアニメーションというと、ちょっと難しい気もしますが、大人の方



今回の講師であり使用したソフト開発にも携わった五味校長先生

したが、一つとして同じ作品がない子供達の個性に驚かされました。価格も割と安価ですので、皆さんもご家庭で、チャレンジしてはいかがでしょうか。



夢中になってアニメーション作成に取り組む子供達

は子供の頃、本のすみっこにパラパラ漫画を書いた記憶があると思います。このプログラムの基本はこのパラパラ漫画と同じで、コンピュータをあまりよく知らない方でも、簡単に動く絵、つまりアニメーションがつくれ、大人から子供まで楽しめるプログラムです。教室の最後では、五味校長先生からアニメーションで物語りを作る課題が出されましたが、一つとして同じ作品がない子供達の個性に驚かされました。価格も割と安価ですので、皆さんもご家庭で、チャレンジしてはいかがでしょうか。

春も間近！ 活動しよう!!

松川町自治会対抗 バドミントン大会

1月17日(日)に松川町自治会対抗バドミントン大会が町民体育館で行われました。結果は次の通り。

- 優勝 チーム大沢
- 準優勝 福与A
- 第3位 名子中部

松川町弓友会 地区館対抗弓道大会

1月31日(日)に松川町弓道場で地区館対抗弓道大会が行われました。結果は次の通り。

- 1位 上新井
- 2位 上大島
- 3位 古町

〈個人戦〉

- 1位 福沢隆夫
- 2位 斉藤実
- 3位 南島健

平成22年度 新春囲碁大会

1月23日(土)に中央公民館で平成22年度新春囲碁大会

が行われました。結果は次の通り。

- 1位 小野田忠雄
- 2位 井澤弘幸
- 3位 中平英雄



本館行事

〈街頭あいさつ運動〉

日時 3月1日(月)
午前7〜8時

場所 町内各所・学校周辺

〈なかよしクラブ〉

(第1回) 日時 3月7日(日)
午前10時

場所 町民体育館

内容 おひなさまコンサート
うたとマジック

(第2回)

日時 3月23日(火)
午前10時

場所 子育て支援センターおひさま
内容 閉講式

並木のり子さん
他 コンサート

地区館行事

上大島地区公民館

〈クラブ発表と文化芸能祭〉

期日 3月6・7・8日
(土・日・月)

なまはろう今

「伝統とロマンを乗せて」 J R 東海ファンクラブ

結成22年目を迎える同クラブは、「写真が好きな人」、「旅が好き
な人」、「模型が好きな人」と様々
です。会員は、北は辰野から南は
名古屋まで、飯田線に沿って40名
程います。年齢層も、中学生から
60歳過ぎまでと幅広く、中でも40
歳から50歳の方が中心に活動を
しています。

ファンクラブに「J R 東海」と
会社名の入ったところは他には
無く、結成時に会社名を入れる許
可をJ R 東海初代社長からもらっ
た伝統あるクラブです。

男と女いきいきフォーラム
が1月16日(土)約40名の方が参
加されて町体トレーニンググル
ムで開かれた。講師は昨年につ
き続きフリージャーナリスト
の内山二郎さん。

今回は「男女共
同参画推進プラン
の実現に向けて」を
テーマに旗揚げアン

ケート方式ワークシヨップと
いう、設問に対して自分が一番
近いと思う答えに対応した色
の紙を掲げてもらうという方
法で大まかな傾向を見てから
個々の意見を聞いていきました。



あらいの街から出発進行!!

松川では、恒例となった、新井
の祇園祭のミニSSLは、同クラブ
主催のイベントです。毎年400人が
乗車し、楽しみにしている子供達
も多いようです。21年度は初めて、
文化祭へ写真、模型の展示をしま
した。現在、町民体育館の事務室
の窓ガラスに展示してある写真
は、同クラブの会長でもあり、中
央公民館の管理人でもある宮下
義雄さんの作品です。

電車と聞くと通勤・通学の手段
のイメージが強かったのですが、
お話を伺う中で、時間を気にせず
のんびり電車で揺られて旅をし
たい気持ちになりました。

いくつかの設問の中で、男女
共同参画を推進するために特
に何が重要だと思えますか？
という問いでは、家庭、地域、職
場などのしきたりや慣習を見
直すという答えが最も多く、そ

性の意識を変える。が同数で続
き、その中でも役につかなけれ
ば条例やプランについて知ら
なかつた。自分自身の意識を変
えていかなければいけない。女
性には出来ないという意識を
無くすのが必要。と
意見があがっていました。

すぽっと 男と女いきいきフォーラム

全体を通して、全
員がしっかりと発言をしてい
たのが印象的で、このワーク
シヨップを通して男女共同参画
についての理解が深まり、活動
につながっていくのではない
かと思えました。

の中でもパートナーの理解が
必要。女性ももっと前に出て行
けば変わるのでは？といった
意見があがっていました。つい
で、男女共同参画推進プランに
ついて認知度を高める。と、女

員がしっかりと発言をしてい
たのが印象的で、このワーク
シヨップを通して男女共同参画
についての理解が深まり、活動
につながっていくのではない
かと思えました。

こころの詩

子牛
東小3年 橋場和樹
小屋の中で元気に遊ん
でいる
ぼくが手を出すと
ミルクだと思つてなめ
てくる

とってもかわい子牛
えさをあげるといどんどん食べる
早く大きくなつて
うんどう場で遊ぼうよ
「牛」
つてよぶと
ふり向いてくれる
ぼくの声がかかるのかな
元氣 元氣
とっても元氣な子牛
なかよくしてね

私とへちま

東小4年 大栗知華

へちまの種を植えた
へちまの芽が出てき
うれしかった
だつて
なかなか出てこなかつたのに
やつと出てきてくれたから
へちまは私のお友だち
前より少し大きくなった
へちまに実がついた
うれしかった
だけ
実を切られたときは悲しかった
くきも切られた
お友だちがひとりへつた
でも
へちまの実をたわしにする
お友だちはまだいる
へちまのたわしを大切にもら
いたい
へちまのたわしを毎日使いたい
へちまさん
ずっとお友だちでいてね

俳句

針供養

北原愛子(弥久司)

ケープルを降りし参道冬時雨

粕汁に鮭の頭や冬の夜

六地藏雪にうもれて笠ほしや

針供養目のおとろへは言ふまじく

高野山尼僧の列や寒に入る

短歌

同級会

矢澤芳子(大栢)

初春に花を咲かせと梅の枝
挿したる桶を陽を追い移す

母の日に送ぐりくれたるカーネーション
いくとせ庭に咲き続けおり

戦いも経て承えしを労わり合い
八十路となりて終る同級会

晴天の続ける今朝も水をやる
カンナ・野牡丹吾も雨ほし

ピワの実に夜毎寄りくるハクビシン
対策すれど多数荒らされる



町の古民具 ⑤4「釣筒」(かぎつつ)

視点

いろりに掛ける鍋や鉄瓶などの高さを調整した。



声

およりての森整備
自ぜんの中の動物たち
松川ネイチャーキッズ 北小3年 岡部朱莉

昨年11月28日、松川ネイチャーキッズの仲間たちは、およりての森活性化を考える会の皆さんと一緒に、森の整備活動を行いました。作業が終わった後は、松川青年の家へ移動して、将来どんな森になったらいいか意見を出し合い絵を描きました。

動物たちは、おなじ時間に、集まってケンカをしないように、食べ物やさがして、食べています。水は、そこらへんの池

の水をのみます。森の中に、住んでいる動物は、少ししかいません。なので森も大切にしないとなあと思いました。森や山の中には食べられる物と食べられない物があるんだなあと思いました。私がいっぱい行っている森は、「およりての森」です。およりての森には、階段や橋があります。そうじをするのはたいへんだけれど、そうじをすればきれいになるし、自ぜんもよろこぶかもしれないからです。

事があります。それは、落ち葉がひ料になる事です。落ち葉は、おちるとただぬれるだけかとおもったけれど、ひ料になる事をしました。ネイチャーキッズに入ると色々な事が分かるので、私は、ネイチャーキッズに入っていてよかつたなあと思



これで橋も安全に長持ちするね

私もおよりての森をそうじしました。さいしよはいやだなあと思っただけどうじが終わったら、どの所もきれいで自ぜんが「そうじをしてくれてありがとう。」と、言ってくれたような気がしたから、次の時のそうじもきれいにしたいなあと思いました。私は、はじめてでした



落ち葉やコケが橋をおおっていました



みんなでがんばったよ！

森に居るときの自分の気持ちや、森の中にはどんな動物が暮らしているのか？また、その森に人間がお邪魔するとき、どんな人工物(設備)だったら森に負担をかけないですむのか？それぞれが感じた森を描きました。
1月17日には森の中で思いっきり雪遊びも楽しみました。
3月6日に中央公民館でこれまでの活動の発表会を予定しています。仲間の描いた森の絵を展示します。みなさんぜひ見に来てください。



夢の森を描いて形にしました

いました。次も、がんばりたいです。

おひさま草

「靴揃ってないじゃん」

2歳半になる娘の最近の流行語だ。注意したあとに得意げに揃してくるが、微調整にこだわりがあるのか、触るとカンシヤクを起こすあたりが親子だと思ふ。

早いもので娘を未満児保育に預けて一年半。最初は、預ける事に対して、不安もあったが今では、預けて良かったと思っている。それは、「父親としての自覚」を認識する事ができたからだ。

娘を保育園に預けるまで娘の世話はほとんど妻だった。預け始めて、着替え、朝食、保育園へ送る事を体験する中で今までの妙な亭主関白(風)を反省するとともに、母親の大変さと素晴らしさを感じる事ができた。

「子育て」は「子供を育てる」が一般的かもしれないが、自分の場合、「子供に育ててもらっている」と言った方が正しいかもしれない。一緒に成長していく事を楽しみながら、今日も少し靴をズラして置くと思う。

(大東洋文)

公民館報
「まっかわ」
第 556 号
平成22年2月15日

発行所 松川町公民館
責任者 塩澤 三佳
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)